

PR31332

☆共JBN 外0845 (産業、チベット) (08・8・6)

【産業担当デスク殿】31332

◎チベット人の日常での発言 25分間の記録映画公開へ

【北京6日PRN=共同JBN】チベット人の本当の感情を密かに撮影した映画が6日正午、北京で世界のメディア向けに公開される。

第24回オリンピック大会が開催される北京で6日、チベットで密かに撮影され3月のチベットにおける蜂起直前に国外に持ち出された前例のない映画が世界のメディアに公開される。「恐怖を後にして (Leaving Fear Behind)」と題された25分の記録映画は、勇敢なチベット人映画制作者によって撮影され、中国の支配、5輪大会との関係、その象徴するもの、ダライラマの帰国などについてのチベット人の気持を撮っている。

チベット東部出身のドンダップ・ワンチェンさん(農民)と友人のゴログ・ジグメ(僧侶)さんは映画制作を独習し、3つのテーマでチベット人の日常を35時間以上にわたってインタビューした。3つのテーマは中国のチベット支配、北京5輪大会、ダライラマである。

この映画制作者たちは300ドルのビデオカメラを手にして、それ以外はほとんど費用をかけずにオートバイでチベット東部の遠隔地やチベット平原へ出かけた。当初から彼らの目的はチベット人の声を北京5輪に伝えることだった。ドンダップ・ワンチェンさんは「チベット人が北京に行って発言するのは難しい。それでチベットにいるチベット人の本当の思いを映画を通じて表現しようと決めた」と語っている。

2007年10月から2008年3月までの間に100以上のインタビューが撮影された。農民、ビジネスマン、学生、遊牧民、僧侶、青年から年配者まであらゆる経歴のチベット人の思いが記録されている。彼らの自然な応答は簡潔にまた雄弁に抑圧と差別によって特徴付けられた日常生活を語っている。

インタビューからの引用

— 「5輪大会が開かれるのは実のところうれしいがほとんどが誤って伝えられている。中国は中国とチベットの状況を改善するという条件の下で5輪開催を認められたのだ」。

— 「外部の人はチベット人が厚遇され幸せであると考えられるかもしれない。しかしチベット人は自分たちの苦難を自由に話せないと言うのが真実だ」。

— 「チベットではチベット人1人に対し10人から15人の中国人がいる。チベットのいたるところに中国人がいる」。

— 「この発言をダライラマに伝えるために自らの命を犠牲にしなければならないとしたら、喜んでそれを受け入れる」。

この映画に登場する20人は非常な危険を冒して自分の顔が写るのを承諾している。ドンダップ・ワンチェンさんは「インタビューした何人かは絶対に顔を映すようにと主張し、そうでなければ話さないと言った」と語り、北京のチベットに関する発言に強く反発したことを明らかにしている。

ドンダップ・ワンチェンさんはこの危険な映画制作の過程で別名のジグメ(チベット語

で恐れ知らず) を名乗った。この別名と計画に参加した人たちの勇敢さに基づいて映画の題名は「ジグドレル」となった。恐怖を後にしてという意味である。

この映画を国外に送り出した直後にドンダップ・ワンチェンさんとゴログ・ジグメさんは逮捕された。かれらは今日まで拘留されている。ドンダップ・ワンチェンさんは青海省西寧のグワンション・ホテルに拘留されているのを目撃されたのが最後である。ゴログ・ジグメさんは甘肅省臨夏の拘留センターにいるのを目撃されている。

この映画はスイスに送られそこでワンチェンさんのいところであるジャリジョン・ツェトリンさんによって仕上げられた。ツェトリンさんは2002年にチベットから逃げ出し、この映画制作のため「チベットのための映画制作」を立ち上げた。

詳細とオンラインで映画を見るためにはwww.leavingfearbehind.comを参照。中国国内からウェブサイトにはアクセスするには中国政府の検閲を迂回するためのツールが必要である。VPNもしくは訪れるウェブサイトの監視を妨害するソフト、もしくはコンテンツフィルタリング・システムをバイパスするオープンソース・ウェブプロキシであるP s i フォンなどが推奨される。

(了)

▽問い合わせ先

編集者注意: Email inquiries: info@leavingfearbehind.com

Web site: <http://www.leavingfearbehind.com>